

軌跡の証明：遅刻にはその人の取り組みが表れる。

THE MIRROR OF ACTION

「遅刻は大歓迎だ」

時間通り

だから、腹を立てる
必要がない。

遅刻

- 誰も来なければ、自習やトレーニングに使える。
- 来ている人の練習量が増える。
- 慌てず、安全に来てくれればいい。

怒られない



評価されている

怒らないことと、何も見ていないことは違う。やむを得ない事情もなく遅刻を繰り返すなら、「この人にとって、練習の優先順位はこのくらいなのだな」と理解するだけだ。嫌いになる必要も、感謝に置き換える必要もない。

許されていることと、評価されていることは別なのだ。

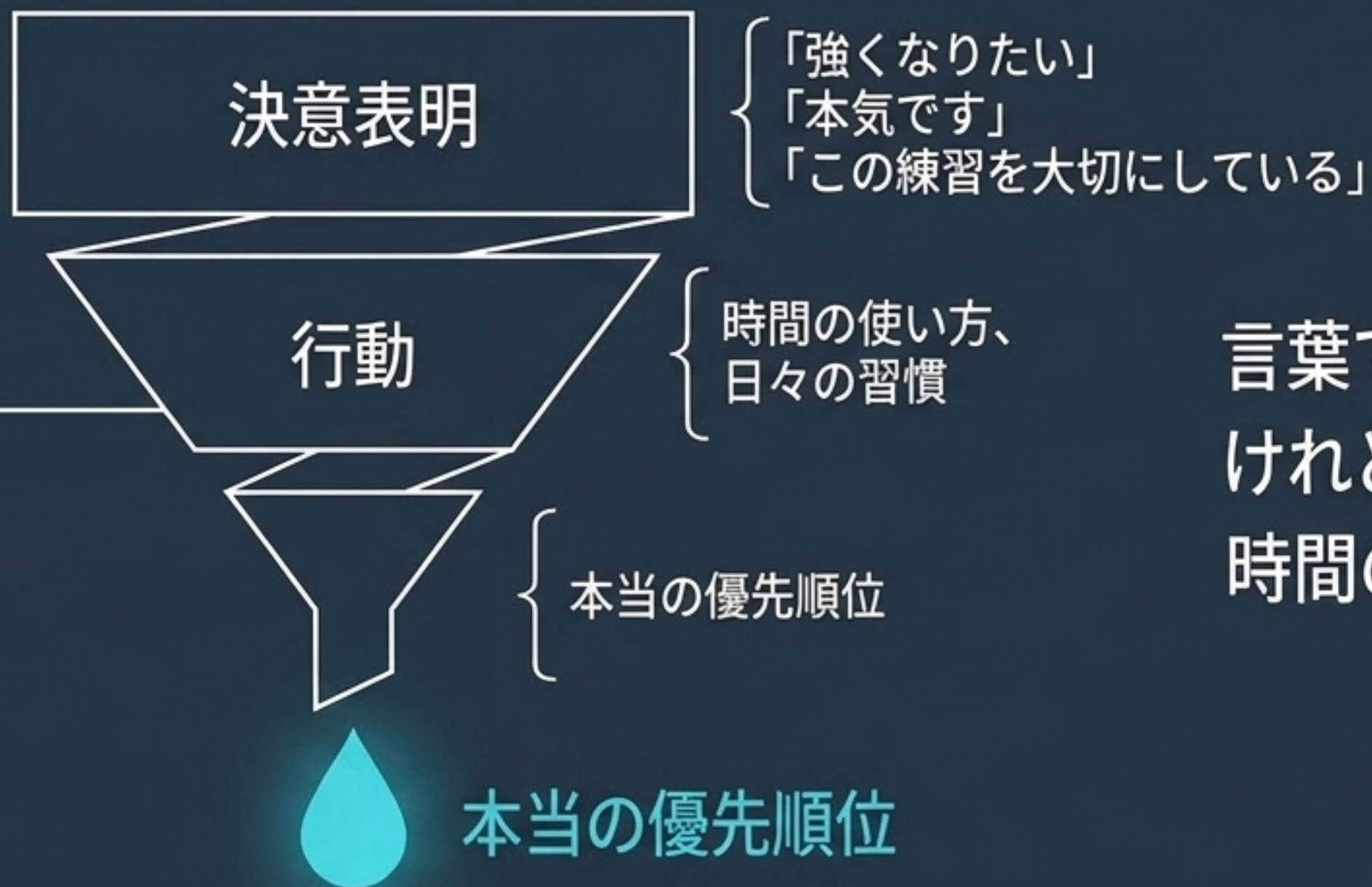
穏やか

指導者の反応

怒る

指導者の反応	評価・信頼度	
	低	高
穏やか	穏やか × 低信頼 期待の放棄	信頼関係の構築
怒る	関係性の悪化	期待ゆえの指導

読者が陥る錯覚。
「自分は気にしない」は、
相手も気にしない理由には
ならない。
一度の遅刻で静かに評価を
下げる場所もある。



言葉では、いくらでも語れる。
けれど、本当の優先順位は、
時間の使い方に表れる。

5分の遅刻

- ・ 何時に寝たか
- ・ いつ準備をしたか
- ・ どれだけ余裕を持って出発したか
- ・ 連絡、調整、繰り返さない工夫

小さな選択に、その人の取り組み方がにじみ出る。
ただ時計に間に合ったかどうか問われているのではない。

他人基準

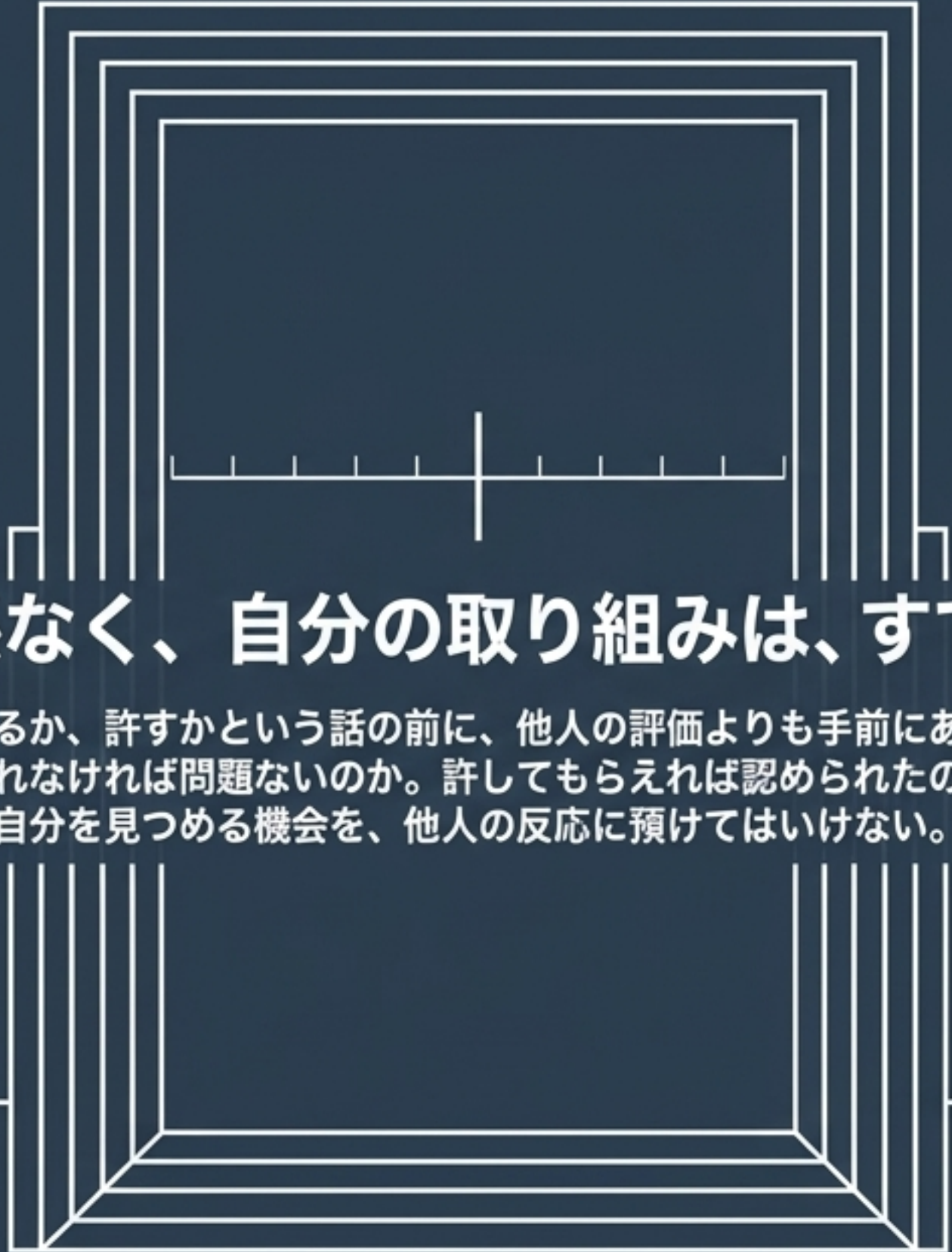
- 「怒られるから時間を守る」
- 「怒られないから遅れてもいい」

本質：自分の目標より、他人の機嫌を優先している状態。

自分基準

- 「その場で何が求められているかを読み、行動を変える」
- 「遅刻しないことは、信頼を失わないための技術」

本質：自分が大切だと言ったものを、行動で守る状態。



どう扱われるかに関係なく、自分の取り組みは、すでに行動に表れている。

遅刻を責めるか、許すかという話の前に、他人の評価よりも手前にある「事実」。
怒られなければ問題ないのか。許してもらえれば認められたのか。
自分を見つめる機会を、他人の反応に預けてはいけない。

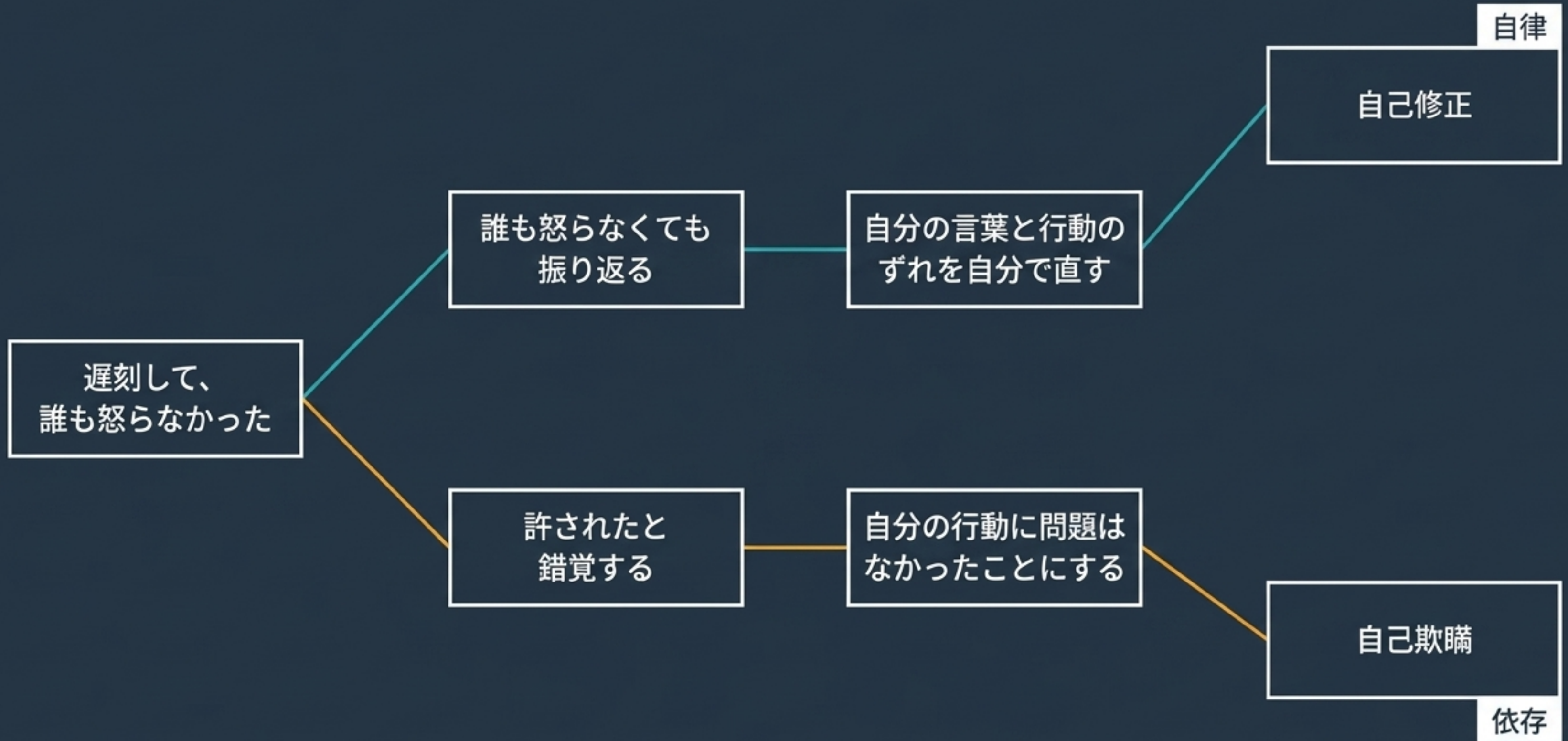


「大切にしています」



投資した時間

問われているのは、
自分が大切だと語ったものを、
実際にはどう扱っているのか。



私は何を大切だと語り、 何に時間を使っているのか。

その答えは、決意表明の中にはない。
今日、自分がどう動いたか。その中にあるのだ。
誰にも褒められなくても、準備はできる。
自分の言葉と行動のずれは、自分で直せる。

大切なのは、叱られないことではない。
自分が大切だと言ったものを、
行動でも大切にすることだ。
